



大分県公文書館だより

平成27年3月 第22号

「AR」はアーカイブズとアーキビストの頭2字をとり、歴史情報を守り未来に生かすさきがけの使命を表しています。



開館二〇周年に寄せて

大分県公文書館長 土谷 晃

大分県公文書館は平成七年二月二八日に開館し、今年で二〇年を迎えました。

開館以来、明治四年の廃藩置県以降の本県の公文書を中心に一二万点を超える公文書、地域資料などを収集してきており、また、読むことが難しい明治期、大正期のくずし字で作成されている公文書についても、内容の確認とともに文書検索を可能とするための記載内容の電算登録がほぼ終了するなど、この二〇年で公文書館としての基本がようやく形成されてきました。

これからは、書籍や歴史資料によって大分県の姿を過去から未来に伝える文化施設「豊の国情報ライブラリー」の一員として、併設されている県立図書館、先哲史料館とともに成長していくことが求められています。

しかし、県立図書館や先哲史料館で一般書籍や歴史資料としての古文書を閲覧される方は多いものの、「公文書館」で「公文書」そのものを閲覧できることをご存じの方は少なく、公文書館が開館して二〇年を経過した現在でも、利用していただける方はごく限られた方のみであるのが実態です。

この二〇年で公文書を中心とした資料の収集、整理を行い、資料を充実させてきているにも関わらず、利用者が増加していないことについては素直に反省すべきであると思います。

このため、企画展示の機会を増やして大分県公文書館の周知を図るとともに、本県に関する様々な地域資料の収集や平成二四年度に収集した香川真一関係資料を整理するなどして資料の充実を図り、映像資料を積極的に公開するなどにより、多くの方々が利用しやすい施設へと成長していけるよう努力して参ります。

大分県公文書館の二〇〇年

大分県公文書館は、昭和六二年に制定された「公文書館法」の趣旨を受け、平成七年二月二十八日に開館しました。県レベルでは九州初、全国では二五番目の公文書館でした。

開館の翌年には、第一回企画展「明治初期の大分県」を開催し、平成二年までに単独で一、二回の企画展を行い、平成二二年から三館合同による展示を行ってきました。

平成一二年一〇月には、「全国歴史資料保存利用機関連絡協議会」大分大会が開催されました。この頃から、公文書等の複製本化を始め、現在では約四千弱の複製本を利用に供しています。

また、初代から三代目までの県知事に関する資料も収集することができました。初代森下景端に関する資料は、岡山県立博物館所蔵資料を平成一七年にマイクロフィルム化し、二代目香川真一に関する資料は、襖の下張文書を瀬戸内市から平成二四年に寄託を受け、三代目西村亮吉に関する資料は、ひ孫の西村徹雄氏から平成二四年に寄託をしていただきました。

その他、平成一七年から別府大学生へのアーカイブズ実習、平成二一年から「記録史料保存セミナー」の開催、平成二二年には、「大分県歴史資料保存活用連絡協議会」を設立し、県内市町村の文書管理・文化財の担当者に向けたスキルアップのための学習会を行っています。

さらに最近では、今後の文書管理を考える上での最大の課題である電子文書の保存に関して、平成二五年度から電子文書（公文書のみ）の引渡しを開始したところです。

開館二〇周年記念行事

「企画展のあゆみ」

平成二六年四月から翌年一月まで、これまでの企画展をふりかえるパネル展「開館二〇周年記念 企画展のあゆみ」を、公文書館の閲覧室で開催しました。

「物産」

四月から七月の間は、「物産」に関する資料を展示しました。「昭和初期大分県の主要産物」は、大分県で金と銀の産出量が全国一位であったことを示しています。



「災害」

七月から一〇月の間は、災害をテーマに、昭和二〇年代に県内を襲った豪雨被害の状況が伝わる記録を展示しました。



「観光」

一〇月から一月の間は、「観光」をテーマに別府や耶馬溪の観光に関する資料を展示しました。



別府のコーナーでは、浜辺に座る水着の女性を描いたポスターが人気で、耶馬溪のコーナーでは、吉田初三郎が描いた鳥瞰図を拡大したもの好評でした。

開館二〇周年記念三館合同展示

「おおいたの記録」

「近世から近現代までのあゆみ」

平成二七年二月七日から三月二二日まで、豊の国情報ライブラリー（県立図書館・公文書館・先哲史料館）の開館二〇周年を記念して、三館合同展示を開催しました。

これは、三館の二〇年間の成果をもとに、「おおいた」の近世から近現代までを通史で展示する初めての試みで、国立公文書館の貴重な資料八点とともに展示を行いました。以下、公文書館が担当した展示箇所について紹介をします。

「大分県の誕生」

廃藩置県に先駆けて行われた日田県の設置から廃藩置県後の大分県の成立過程、大分県成立後に迎えた最初の試練である西南戦争、これらに関する資料を展示しました。（以下、「大分県の成立過程」の概要）

明治四年（一八七二）七月一四日の「廃藩置県ノ詔」によって、藩は廃止され、府内県・臼杵県・岡県・杵築県・中津県、また熊本県など、一一もの県が現在の大分県域に置かれました。



その後、一一月一四日に豊後の各県（府内県・臼杵県・岡県・杵築県など）を合わせた地域が大分県とされ、豊前の各県（中津県など）は、小倉県になりました。

小倉県は、明治九年四月一八日に廃止され、福岡県に編入されます。小倉県内であった下毛郡（中津）と宇佐郡は、同年八月二日に大分県に再編入され、この時によりやく現在の大分県域が確定しました。

「国政参加要求」

自由民権運動や普通選挙法下での衆議院議員選挙に関する資料などを展示し、国政への参加を要求した大分の先人たちの歴史を紹介しました。（以下、「大井憲太郎と大阪事件」の概要）

宇佐郡高並村出身の大井憲太郎（一八四三～一九二二）は、幕末から大正までを生き抜き、生涯にわたり普通選挙運動を続けた人物です。

大井は、近代的な憲法の下で国会が開設され、身分に関わりなく人民が政治に参加できることを望みました。この思想が過激になり、明治政府の転覆までを計画したのがいわゆる「大阪事件」です。

この計画は、明治一八年一一月二三日に大井らが警察に捕らえられたことにより頓挫してしまいますが、警察の取り調べにより明らかにした事件の概要を記した報告書によると、爆発物やその薬品、刀剣等を準備していたことなど、革命を本格的に考えていたことがうかがえます。

また、この報告書からは、磯山清兵衛が資金（千四・五百円）を持ち去り失踪したことが計画上最大の障害であったということなども知ることができます。



「戦争」

シベリア出兵から降伏文書調印式までに關する資料を展示しました。（以下、「降伏文書調印式」の概要）

昭和二〇年九月二日、東京湾上のアメリカ戦艦ミズーリの甲板上で降伏文書調印式が行われ、大分県出身である二人の人物、重光葵と梅津美治郎が署名をしました。外務大臣であった重光は政府代表として、参謀総長であった梅津は大本営代表として、選ばれています。



「開館二〇周年記念講演会」

豊の国情報ライブラリーの開館から、二〇年という節目の記念日（平成二七年二月二八日）に、開館二〇周年記念講演会を開催しました。

先哲史料館長 佐藤晃洋氏が、「海を越えたマレガ文書―豊の国情報ライブラリーと豊後キリシタン史料との出会い―」と題した講演を行い、一八五名もの多くの方々に参加されました。

講演では、昭和二四年に大分市内のトキハデパートで行われた「ザビエル四百年祭記念関係資料展覧会」に、中川神社（竹田市）が所蔵する国の重要文化財「サンチャゴの鐘」を出陳する際の依頼書など、公文書館所蔵資料も紹介されました。



「展示解説会・バックヤードツアー」

開館二〇周年記念展「おおいたの記録―近世から近現代までのあゆみ―」の開催に合わせ、展示解説会とバックヤードツアーを、毎週水曜日の計五回（二月一八・二五日、三月四・一一・一八日）開催し、全日程で二〇名程の方々に参加していただきました。

バックヤードツアーは、県立図書館のエントランスホールを集合場所とし、そこから公文書館の第二書庫、県立図書館の地下書庫、先哲史料館の特別収蔵庫などを見学しました。



「公文書館活用講座」

開館二〇周年記念展「おおいたの記録―近世から近現代までのあゆみ―」の開催に合わせ、展示内容及び公文書館の活用方法を紹介する講座を、三月四日に開催しました。

まず公文書館について認識していただくことから始め、その後、神社・寺院の由緒を調べる際の活用方法や歴史的事項を調べる際の活用方法、最近の身近な出来事を調べる際の活用方法を紹介し、展示内容については、展示解説会で紹介出来ない部分を詳しく説明しました。

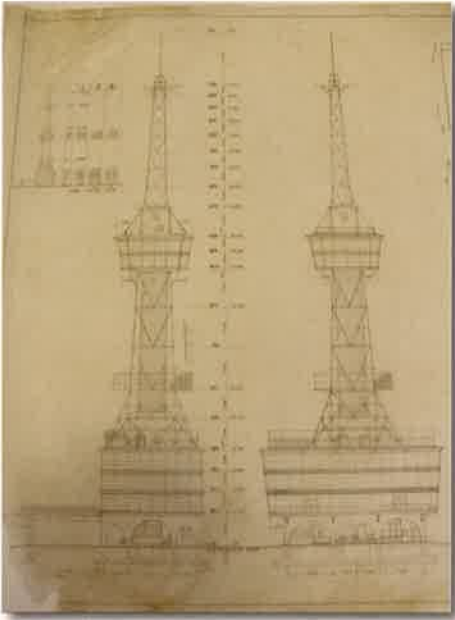
講座参加者の感想には、近代の歴史が大変興味を持てる内容であったため、今後も講座を開催して欲しいといったものや、今でも公文書館を知らなかったが、今後は活用していきたいといったものなどがありました。今後、公文書館を活用していただくためにも、普及・啓発に努め、公文書館に対する「認識」を広めて行きたいと考えています。



収蔵新史料の紹介

「別府タワー関連図面」

平成二六年一〇月九日、日本文理大学の西村謙司氏の仲介により、別府観光開発株式会社代表取締役 津末法良氏から「別府タワーに関する図面」計一〇五点を寄託していただきました。別府タワーの設計者は、高層建築の世界的権威、「塔博士」とも呼ばれる内藤多仲です。内藤多仲は、別府タワーの他、東京タワー、通天閣（二代目）、名古屋テレビ塔、さっぽろテレビ塔、博多ポートタワーも設計しており、これらは「タワー六兄弟」と呼ばれています。設計がコンピュータ化された現在、現存する公共建築物の手書きの図面は限られており、文化的価値も高い貴重な資料です。多くの県民の皆様に見ていただきたいといった、別府観光開発株式会社の要望に応えるためにも、整理後に閲覧及び展示による公開を行っていききたいと考えています。



「香川真一旧邸襖の下張文書」

複製本の作製

第二代大分県長官であった香川真一の旧邸宅（岡山県瀬戸内市）から発見された襖の下張文書は、明治初期の大分県や岡山県の歴史、香川真一自身を明らかにする上で貴重な資料です。この度、この資料を収録した複製本、全二四冊を作製しました。この複製本により、気軽に資料を閲覧及び複写していただくことが可能となりました。



記録史料保存セミナー

平成二五年一月二二日に、公文書館・先哲史料館・別府大学の共催による「記録史料保存セミナー」を開催しました。

市町村の文書管理及び文化財の担当者、郷土史研究グループ、別府大学生、一般県民の方々など、七三名が参加され、二つの講演と意見交換を行いました。

「天草市の市町合併と文書管理条例」

（天草アーカイブス 橋本竜輝）

講演では、天草アーカイブスが市町合併の際に苦慮した、旧自治体からの文書の移管についての報告がありました。

旧自治体がそれぞれ異なる文書管理を行っていたことや、目録がなく職員自身も文書の把握ができていなかったこと、こういった現状の中で文書の移管及び整理を行うためには、「受入目録」と「共通ルール」を作成する必要性があるといったことが大変参考になりました。

また、新たな文書管理体制を構築するため、「文書管理条例」設置への動きがあることも紹介されました。

条例には、市の責務のみならず、「市政に関心を持って、主体的に関わる市民の責務」を明確化する予定であり、天草アーカイブスが市民とともに文書管理を行っていくことを目指す点に、深く感銘を受けました。



「臼杵市蔵歴史資料の伝来について」

〔臼杵市文化・文化財課 岡村一幸〕

講演では、臼杵市所蔵の歴史資料がどのように伝来してきたかについて、資料内容の紹介とともに説明がありました。

また、歴史資料の公開を望む声から展示による資料の公開を開始したことが紹介され、公開活用と収蔵の立地の面で苦慮している点なども報告されました。

今後は、公開活用を望む声（市民・県民）を巻き込み、貴重な歴史資料を多くの方に見ていただき、それを一緒に守っていく体制作りが必要になること、アーキビスト（職員）は資料が持つ魅力をいかに伝えられるかが重要であることなど、改めて考える機会となりました。

別府大学アーカイブス実習

当館は、平成一七年度から毎年、別府大学の文書館専門職（アーキビスト）養成課程の実習のため、学生の受入を行っています。今年度は、十名が一〇月一八日に来館しました。

従来は、大学の夏休み中に実習を行っていたため、当館に来てから公文書館業務等を一から学んでいたのですが、今年度から授業で公文書館業務等を学んだ後に、実習を受けられる体制に変更したため、より効率的な実習を受けられるようになりました。

実習では、窓口（レファレンス）業務の時間を長くとり、公文書館文書管理システムによる検索だけにとどまらず、資料の出納や資料の内容に関する発表までを実習の範囲にしたため、班でよく話し合うなど、学生が積極的に実習に

取り組み姿が見られました。

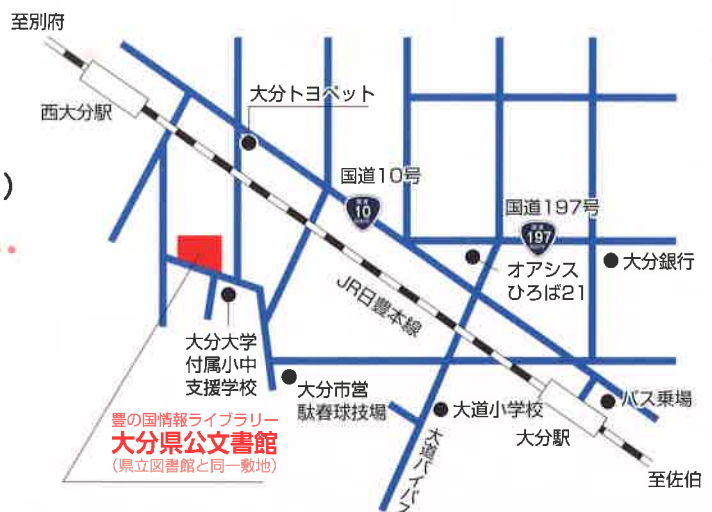
実習生からは、利用者の様々な声に対応するために膨大なデータベースが必要であること、検索方法にも参考文献を使うなど色々手法があること、大学では学べない体験をすることができたと、感想をいただきました。



お知らせ

当館は、明治期以降の資料を収集しています。資料についての情報提供、寄贈・寄託などのご相談がありましたら是非ご連絡ください。

案内図



～利用案内～

利用時間

午前9時～午後5時

休館日

日曜日・月曜日・年末年始・特別整理期間
国民の祝日
(日曜日または月曜日と重なった場合は火曜日)

発行日 平成27年3月31日発行

編集・発行 大分県公文書館

〒870-0008 大分市王子西町14番1号

TEL 097-546-8840 FAX 097-546-8849

HP <http://www.pref.oita.jp/site/346/>

Mail a11103@pref.oita.lg.jp